



扇精光コンサルタンツ(株)に勤務する光永裕弥さんは入社10年目。現場で活躍したいという願望から、建設コンサルタントの道を選んだ。その努力が実を結び、参加した業務が発注者から表彰されるほど成長。急速な変化が起きている建設業界だが、その潮流に乗り遅れないよう技術を磨きたいと意欲を語る。光永さんの仕事にける思いを伺った。

●この職業を選んだきっかけ

大学時代から、社会インフラの整備に直接携わることができる、建設コンサルタント企業での勤務を志していました。特に、UAV(無人航空機)や3Dデータなど、測量業界において新たに生まれた技術に魅了され、この職業を選びました。

●職場の魅力や責務

測量は通常、現場で作業するというイメージがあります。しかし、近年の測量ではレーザスキャナなどの先端技術を活用し、現場を丸ごと3次元でデータ化することが増えました。これにより、パソコン上で図面などを作成する機会が多くなり、測量の概念も変わってきています。直近ではiPhoneに搭載されたLiDAR機能を用いて測量ができるようになるなど、デジタル化の波は止まりません。従来の技術・手法に縛られず、新しいことに挑戦できるのも測量の魅力です。

私たちの業界は、平時の業務に加えて災害発生時の緊急出動など社会インフラを維持するための重要な役割を担っています。豪雨による法面崩落等の場面においてもUAVなどの先端技術を活用することで、迅速かつ安全に作業ができるようになってきました。

●優良施工業者に選ばれた喜び

今回のDX推進検討業務は全国でも先駆的な取り組みで、弊社でも前例のない業務でした。限られた時間の中で多様なデジタルツールを用いた検証を行い、その中で有効性を確認できた「リモート境界確認」や「用地3Dモデル」、「クラウド活用」などは、今後の試行に繋がる成果になりました。DX推進の一端を担えたことに加え、優良施工業者として評価頂けたことにとっても感銘を受けており、この表彰に恥じぬよう引き続きDXへの挑戦を続けていきたいと思っています。

担い手シリーズ 39

測量業界は日進月歩 挑戦と進化で 切り拓く未来の地図

光永 裕弥 入社10年目(測量士)
扇精光コンサルタンツ株式会社



●特に尽力を入れた部分

用地業務では個人情報や財産など秘匿性の高い情報を取り扱うため、情報セキュリティの確保が求められます。「クラウド活用」においては、民間企業と異なる行政の情報セキュリティのハードルの高さを如何に解決するかが鍵でしたが、国土交通省国土技術政策総合研究所が製作した「DXデータセンター」の活用により、用地分野で新たな可能性を見いだせたことに喜びを感じました。このツールは、従来送付できなかったUAV写真や3次元点群データなどの大容量データを瞬時に送信できます。受発注者間でのデータ共有は、コミュニケーションをスムーズにしました。

●今後の目標

弊社は、建設コンサルタント業務と補償コンサルタント業務の両方に取り組み、グループ会社としてシステム開発部門を持つ独自性を持っています。また、UAVレーザスキャナなどの新技術の活用を積極的に行う社風があったことも受賞の一因と考えています。先端技術の確立に向けて、全社的にサポートしてまいります。

今後この独自性や社風を活かして、DX化など時代の変化に対応した新しい取り組みを続け、九州を代表するコンサルタント企業を目指したい。



光永 裕弥(みつなが ゆうや)
長崎県長崎市出身、長崎大学工学部
社会開発工学科卒業 平成26年4月
扇精光コンサルタンツ(株)入社

会社概要

扇精光コンサルタンツ(株)
〒851-0134 長崎市田中町585-4
TEL:095-839-2114 FAX:095-839-2197

<https://www.ougis.co.jp/consultants>